

中外製薬 DXメディアセミナー

2021年6月25日
中外製薬株式会社



DX銘柄2020
Digital Transformation



DX銘柄2021
Digital Transformation



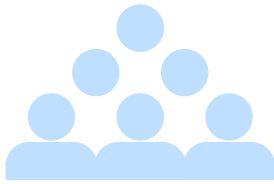
CHUGAI
DIGITAL

Agenda

1. TOP I 2030とCHUGAI DIGITAL VISION 2030
(志済 聡子, 執行役員 デジタル・IT統轄部門長)
2. デジタル基盤強化に向けた3つの取り組み
 - ① Chugai Digital Academy(CDA)
(中西 義人, デジタル戦略推進部長)
 - ② Digital Innovation Lab(DIL)
(中西 義人, デジタル戦略推進部長)
 - ③ Reconsider Productive Approach(RPA)
(小原 圭介, ITソリューション部長)

2030年トッピノベーター像

◆ Envisioned Futureを2030年に中外製薬が到達すべき姿として具現化



世界の患者さん が期待する

世界最高水準の創薬力を有し、
世界中の患者が「中外なら必ず
新たな治療法を生み出してくれる」
と期待する



世界の人財と プレーヤーを 惹きつける

世界中の情熱ある人財を惹きつけ、
ヘルスケアにかかわる世界中の
プレーヤーが「中外と組めば新しい
何かを生み出せる」と想起する



世界の ロールモデル

事業活動を通じたESGの取り
組みが評価され、社会課題解決を
リードする企業として世界の
ロールモデルになっている

私たちが目指す「ヘルスケア産業の
トッピノベーター」の意味合い

ロシュとの協働のもと、引き続き「革新的新薬」を事業のコアに据えながら、
製薬企業に限らず多様なプレーヤーがイノベーションに挑戦する世界の
ヘルスケア領域においてトップクラスのイノベーターを目指す。

2030年トッパイノベーター像実現に向けた新成長戦略

『R&Dアウトプット 倍増』 ・ 『自社グローバル品 毎年上市』

世界最高水準の創薬実現

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ R&Dアウトプット倍増により毎年自社グローバル品上市
- ▶ **デジタル活用**およびグローバル先進プレイヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

先進的事業モデルの構築

- ▶ **デジタル**を核としたモデル再構築による患者価値・製品価値の飛躍的向上
- ▶ バリューチェーン全体にわたる生産性の飛躍的向上
- ▶ 医薬品の価値最大化と収益の柱を目指したインサイトビジネスの事業化

Key Drivers



▶ RED SHIFT

▶ Open Innovation

トッピイノベーター像実現に向けた5つの改革

①創薬

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ **デジタル活用**およびグローバル先進プレイヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

②開発

- ▶ ヒト予測の高度化や複数疾患同時開発等による製品価値早期最大化
- ▶ **デジタルを活用した**先進的且つ効率的な臨床開発オペレーションの実現

③製薬

- ▶ 競合優位な中分子生産技術の確立
- ▶ 世界最高水準の抗体製薬技術の確立と開発スピードの実現
- ▶ **デジタル・外部を活用した**効率的な生産体制の構築

④Value Delivery

- ▶ **デジタルを活用した**革新的な顧客エンゲージメントモデル構築による顧客価値最大化
- ▶ 独自のエビデンス創出による更なる個別化医療の実現

⑤成長基盤

- ▶ イノベーション創出を支える人財獲得、人事制度・最適組織体制の構築と運用
- ▶ **CHUGAI DIGITAL VISION 2030実現**
- ▶ 地球環境対策の実行
- ▶ 質と効率を両立するクオリティマネジメント
- ▶ インサイトビジネスの事業化模索

デジタル技術によって中外製薬のビジネスを革新し、 社会を変えるヘルスケアソリューションを提供する トッピノベーターになる

“ビジネスを革新する”とは

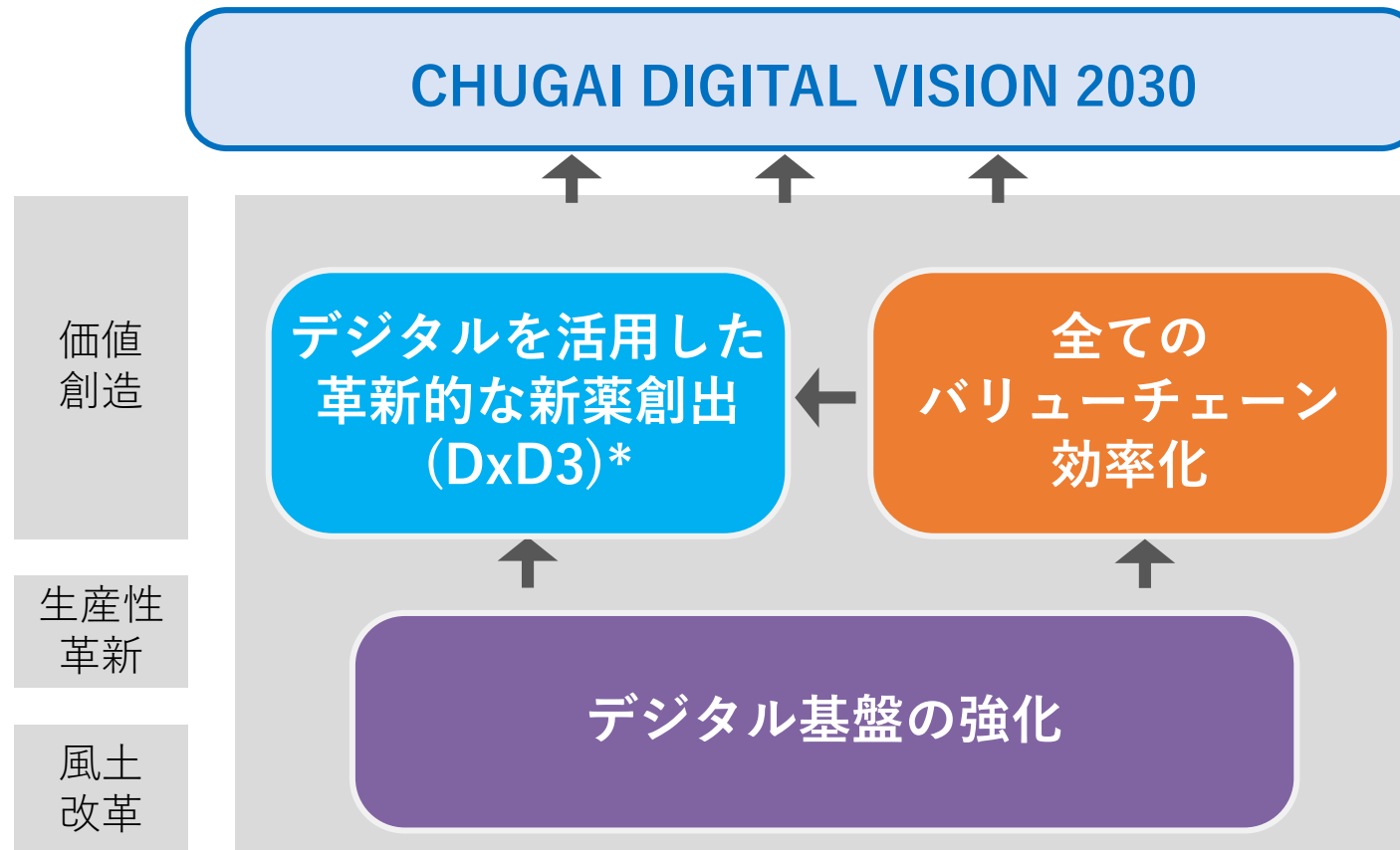
- ◆ デジタルを活用した**革新的医薬品**の継続的な提供を実現する
- ◆ 全ての**バリューチェーンの大幅な効率化**を実現する
- ◆ **革新的なサービス**が提供できる体制を構築する
- ◆ 中外製薬の**社員の意識、組織・風土を変える**

“社会を変える”とは

- ◆ 個々人に寄り添った**最適な個別化医療の提供**を実現する
- ◆ 超早期診断・予防・治療の実現による**ライフタイムを通じた高いQOLを実現**する
- ◆ 人口減少、少子高齢化の社会でも**sustainableな社会保障制度を実現**する

中外製薬の3つの基本戦略

- ◆ デジタル基盤を強化し、全てのバリューチェーンを改革することで圧倒的に生産性・効率性を向上
- ◆ デジタルを活用することにより革新的な新薬を創出し、社会を変えるヘルスケアソリューションを提供する



中外製薬DXの2030の絵姿



2020年末デジタル戦略説明会からのアップデート

デジタルを活用した革新的な新薬創出

- ✓ 中外製薬の人工知能（AI）を用いた抗体創薬支援技術 MALEXA-LIの成果をNature Researchが発行するScientific Reportsに掲載

全てのバリューチェーン効率化

- ✓ デジタルプラントの実現を目指し、生産機能のデジタルトランスフォーメーションに着手
 - ①計画 ②直接業務 ③間接業務のいずれでも、人とオペレーションのデータ連携・最適化を図る
- ✓ デジタルマーケティング戦略の全社展開
 - 営業日報や売上データ等、日々の営業活動で生じる様々なデータを統合データベースに蓄積。機械学習等により状況にあったソリューションを提案
- ✓ Reconsider Productive Approach(RPA)の取り組み促進
 - 全社の各業務効率化を推進するためのプロジェクトを本格稼働

本日詳細を
ご説明

デジタル基盤の強化

- ✓ Chugai Digital Academy(CDA)構想の始動
 - デジタル人財を体系的に強化する仕組みを構築。社内のみならず社外貢献も視野
- ✓ Digital Innovation Lab(DIL)の機能強化
 - 社員のアイデアを形にする取り組みへの外部パートナー企業の巻き込み強化

本日詳細を
ご説明

本日詳細を
ご説明

DX銘柄2021に選定

- ◆ 戦略的デジタルトランスフォーメーションを推進する企業として医薬品産業の中から2年連続で選出
- ◆ トップマネジメントの積極的なコミット、明確なデジタルビジョンや投資方針の下、AIなどを活用した創薬開発プロセスの変革や人財強化・風土改革、患者さんへの新たな価値提供に向けた取り組みなどが評価される

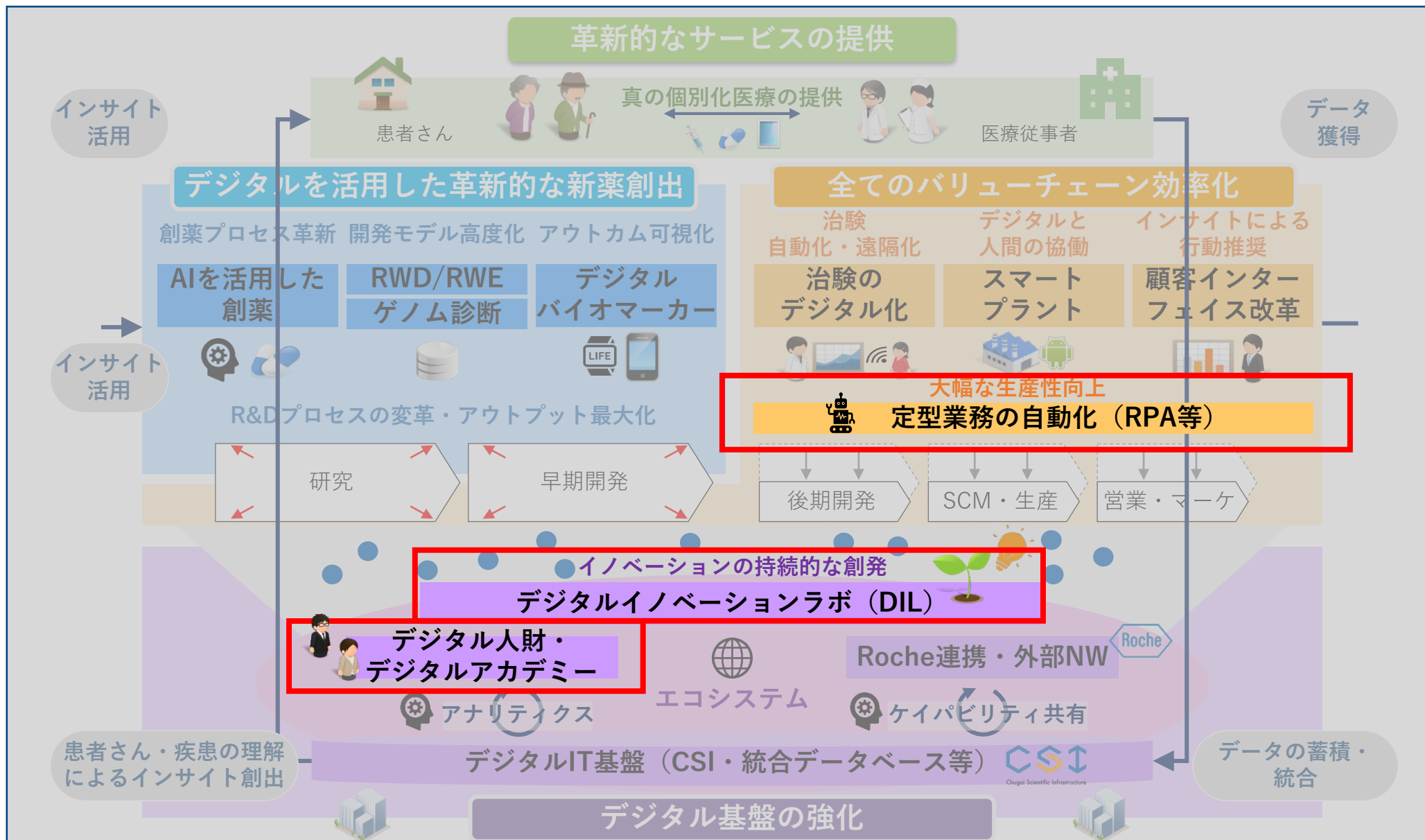


DX銘柄2020
Digital Transformation



DX銘柄2021
Digital Transformation

中外製薬DXの2030の絵姿



Agenda

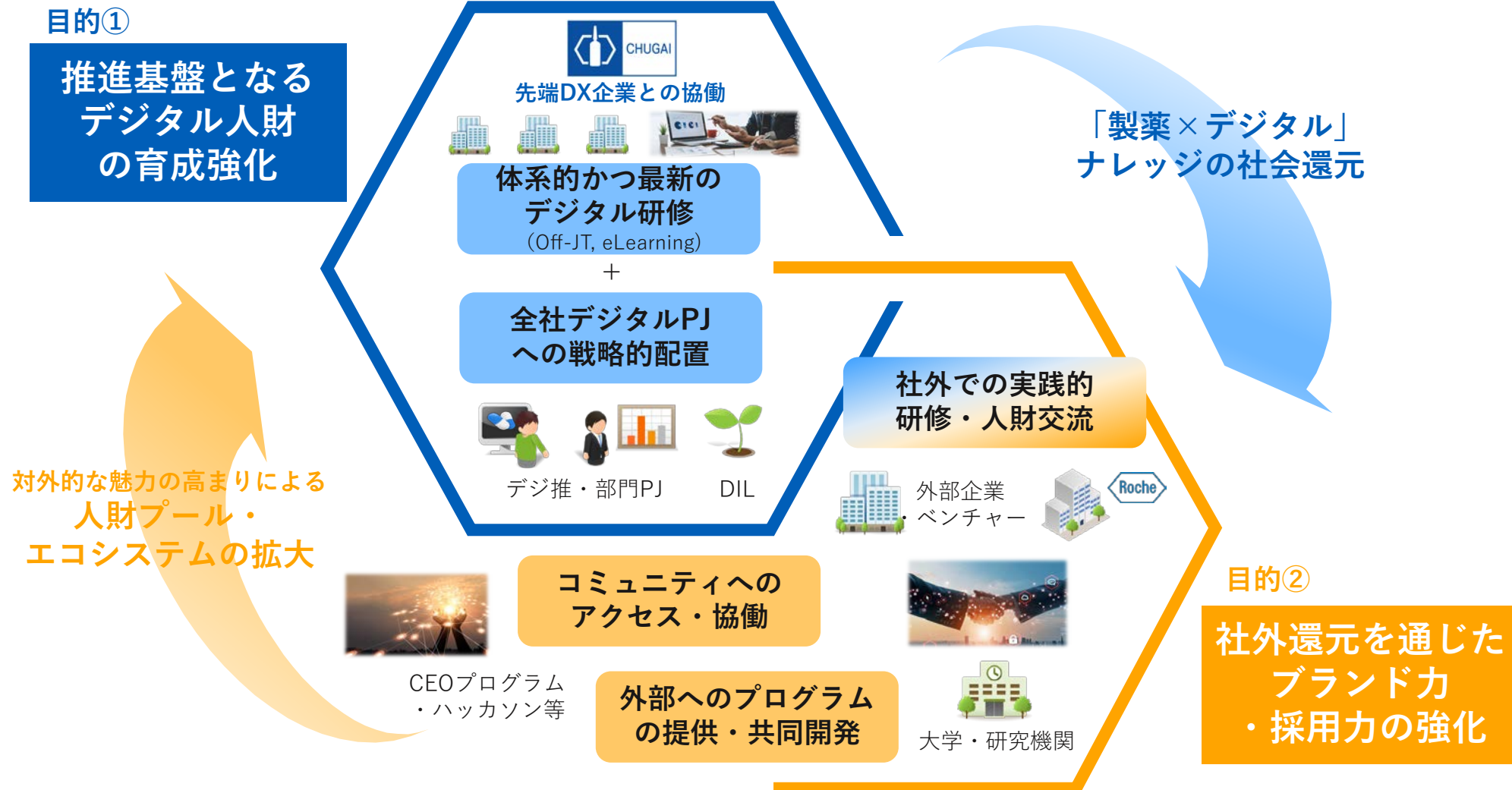
1. TOP I 2030とCHUGAI DIGITAL VISION 2030
(志済 聡子, 執行役員 デジタル・IT統轄部門長)
2. デジタル基盤強化に向けた3つの取り組み
 - ① Chugai Digital Academy(CDA)
(中西 義人, デジタル戦略推進部長)
 - ② Digital Innovation Lab(DIL)
(中西 義人, デジタル戦略推進部長)
 - ③ Reconsider Productive Approach(RPA)
(小原 圭介, ITソリューション部長)

中外製薬DXの2030の絵姿



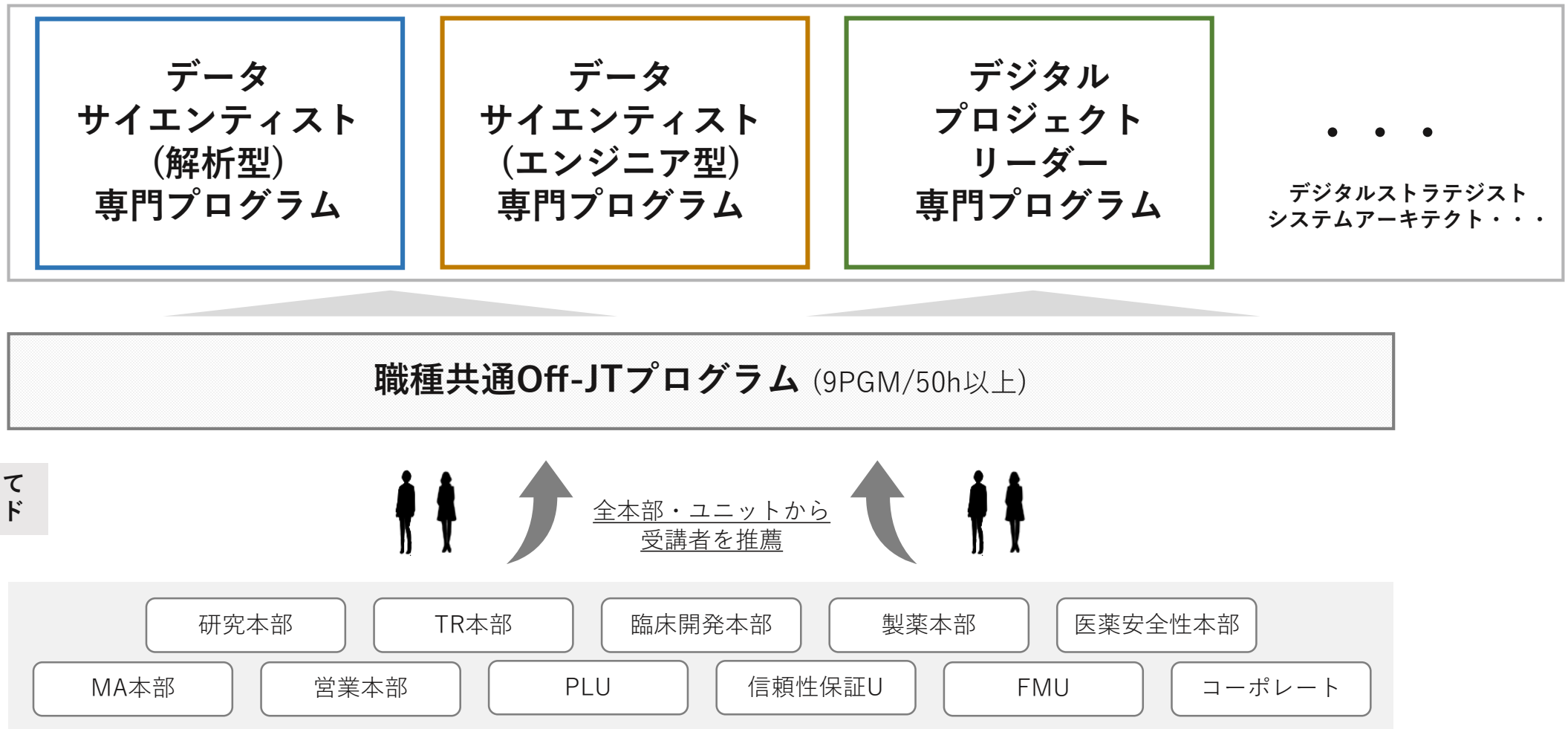
Chugai Digital Academy (CDA) のコンセプト概要

- ◆デジタル人財を育成・獲得する仕組みを構築
- ◆社外還元による採用力強化・外部との連携促進、エコシステム形成



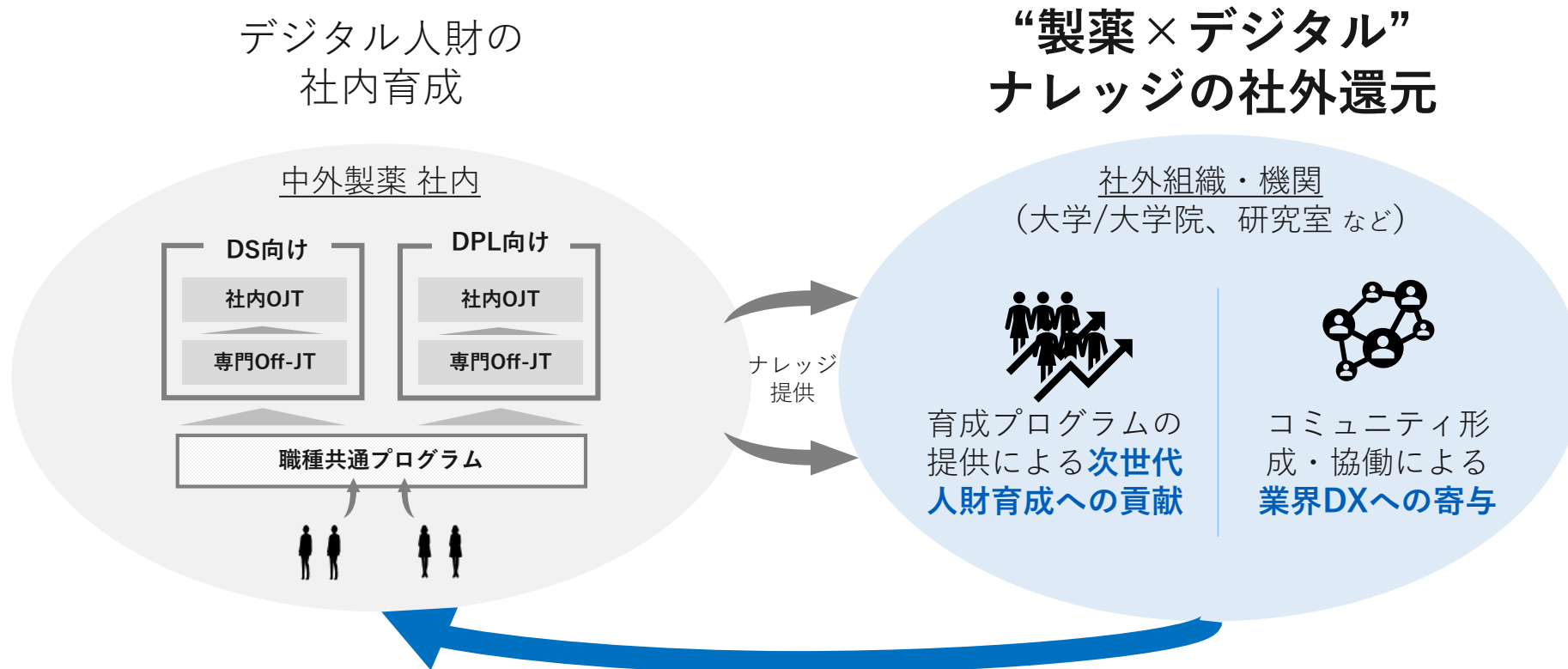
社内人財育成体制の確立

- ◆ 全本部から育成対象人財を募集し、職種共通/職種別専門の講座で構成されるOff-JTと実践的なOJTまで含めた包括的な育成プログラムを提供



社外還元による貢献と好循環の確立

- ◆ 社内で蓄積した「製薬×デジタル」ナレッジを、学生を中心とした次世代人財に積極的に提供。社会還元を通じた中外製薬のブランド・採用力強化を図る



Chugai Digital Academy(CDA)のコンセプト概要

- ◆デジタル人財を育成・獲得する仕組みを構築
- ◆社外還元による採用力強化・外部との連携促進、エコシステム形成

目的①

推進基盤となる
デジタル人財
の育成強化



体系的かつ最新の
デジタル研修
(Off-JT, eLearning)

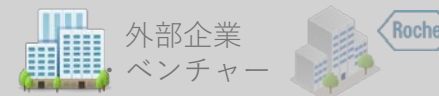
+

全社デジタルPJ
への戦略的配置



「製薬×デジタル」
ナレッジの社会還元

社外での実践的
研修・人財交流



対外的な魅力の高まりによる
人財プール・
エコシステムの拡大

コミュニティへの
アクセス・協働



CEOプログラム
・ハッカソン等

外部へのプログラムの
提供・共同開発



大学・研究機関

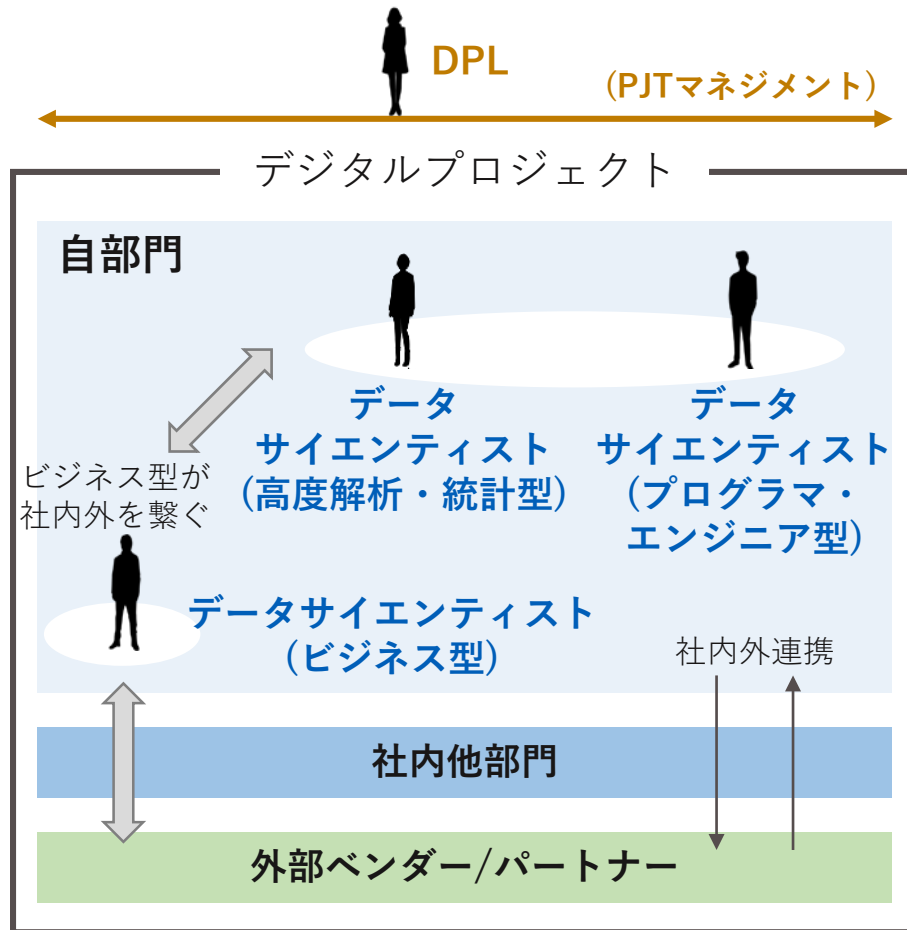
目的②

社外還元を通じた
ブランド力
・採用力の強化

当面の育成対象人材

◆ 21年はDS高度解析・統計型、DPL型の2つを育成優先度高として設定

優先2職種的位置づけイメージ



各人材の役割

DPL(Digital Project Leader) 優先育成職種

幅広いデジタル関連知識・経験を基に、デジタルプロジェクトを企画、管理・推進

データサイエンティスト(DS)

(ビジネス型)

ビジネス上の課題/ニーズを社内外の解析実施者に正確に伝達

(高度解析・統計型) 優先育成職種

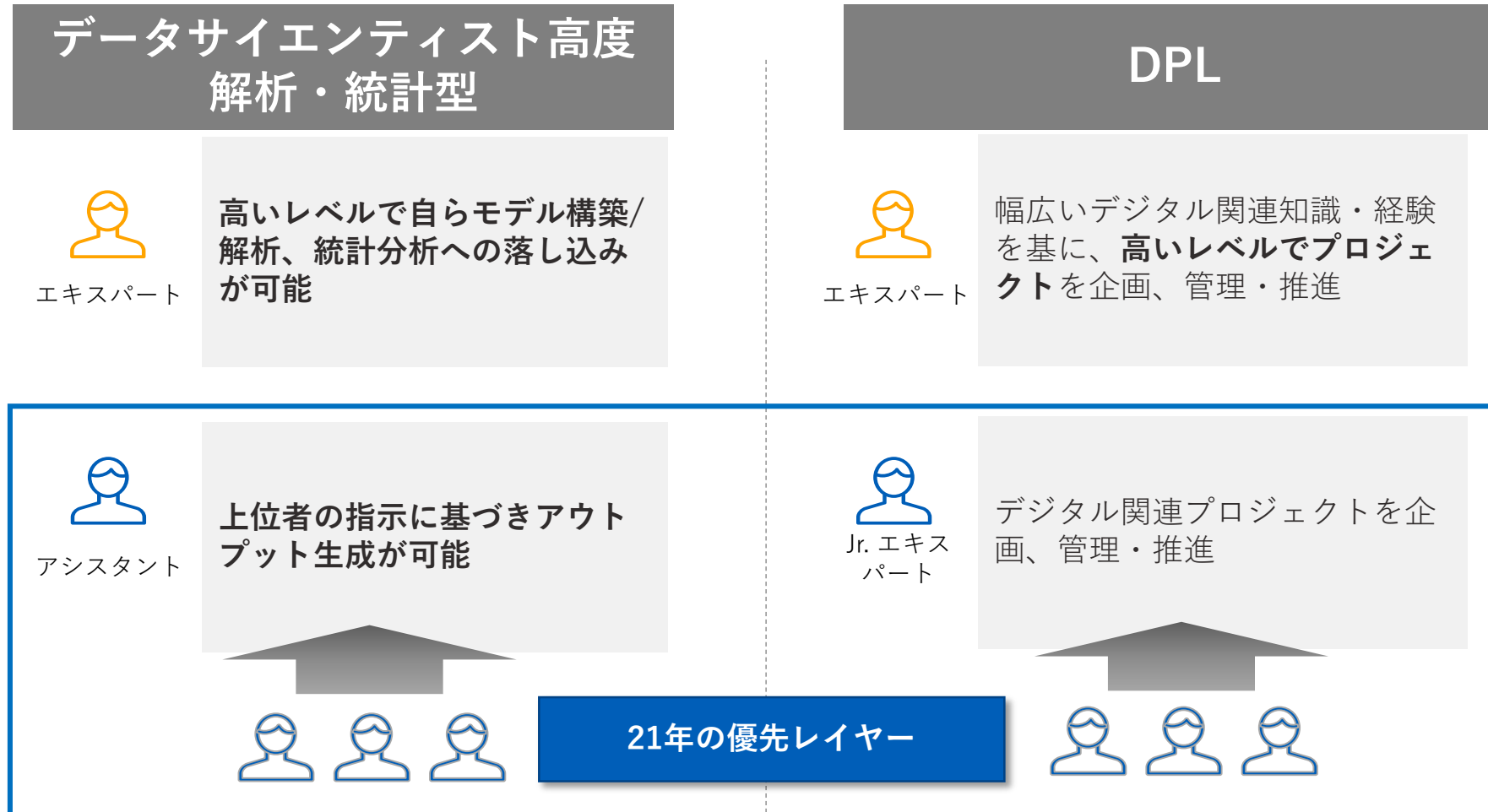
ビジネス上の真の課題/ニーズを理解し、モデル構築/解析、統計分析に落とし込み

(プログラマ・エンジニア型)

解析を支えるプログラミング、データ処理/加工、DBの構築

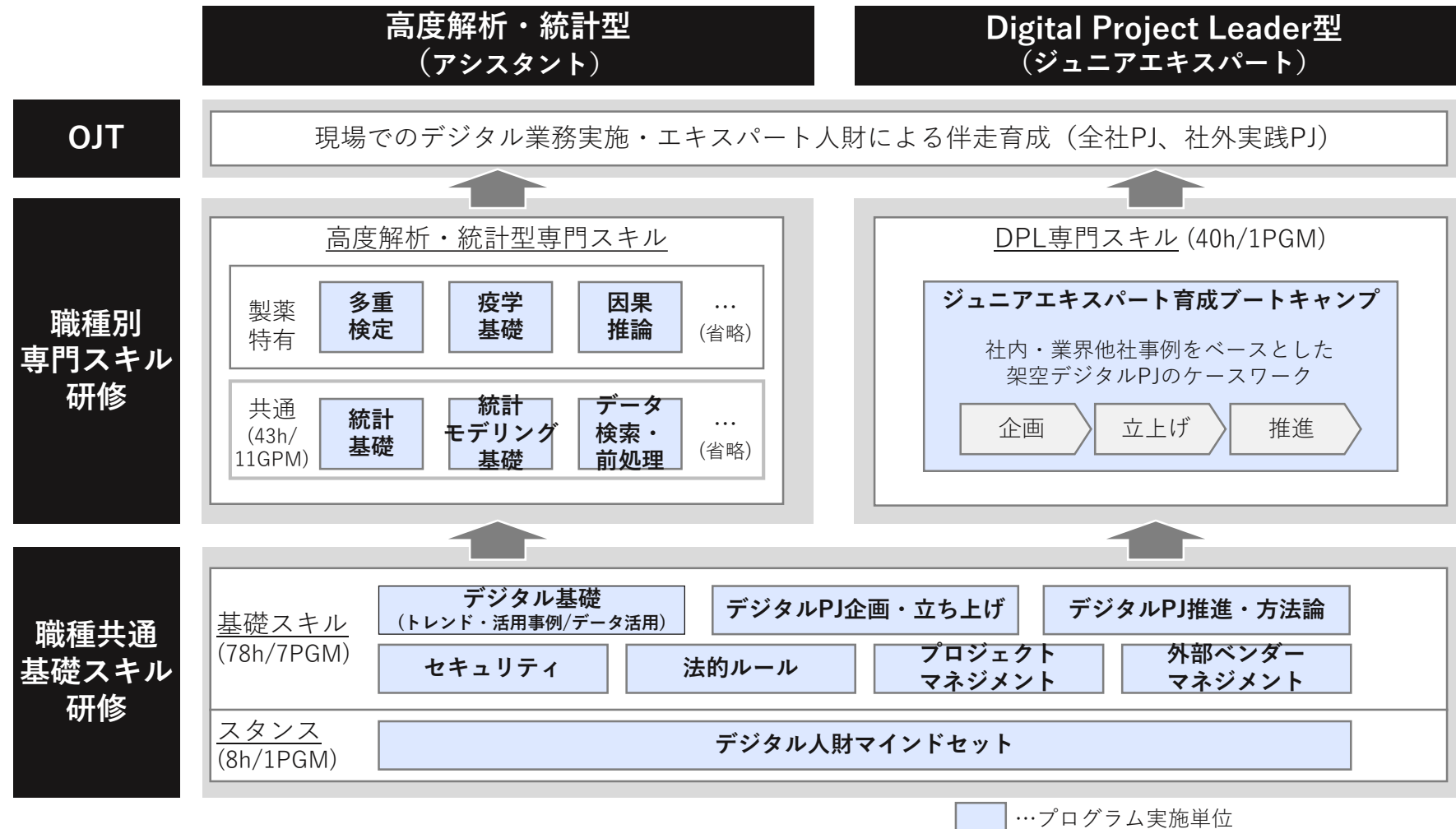
当面の育成対象人財で目指すレベル

- ◆ データサイエンティスト高度解析・統計型、DPLのアシスタント・Jr. エキスパートクラスへの引き上げを行う



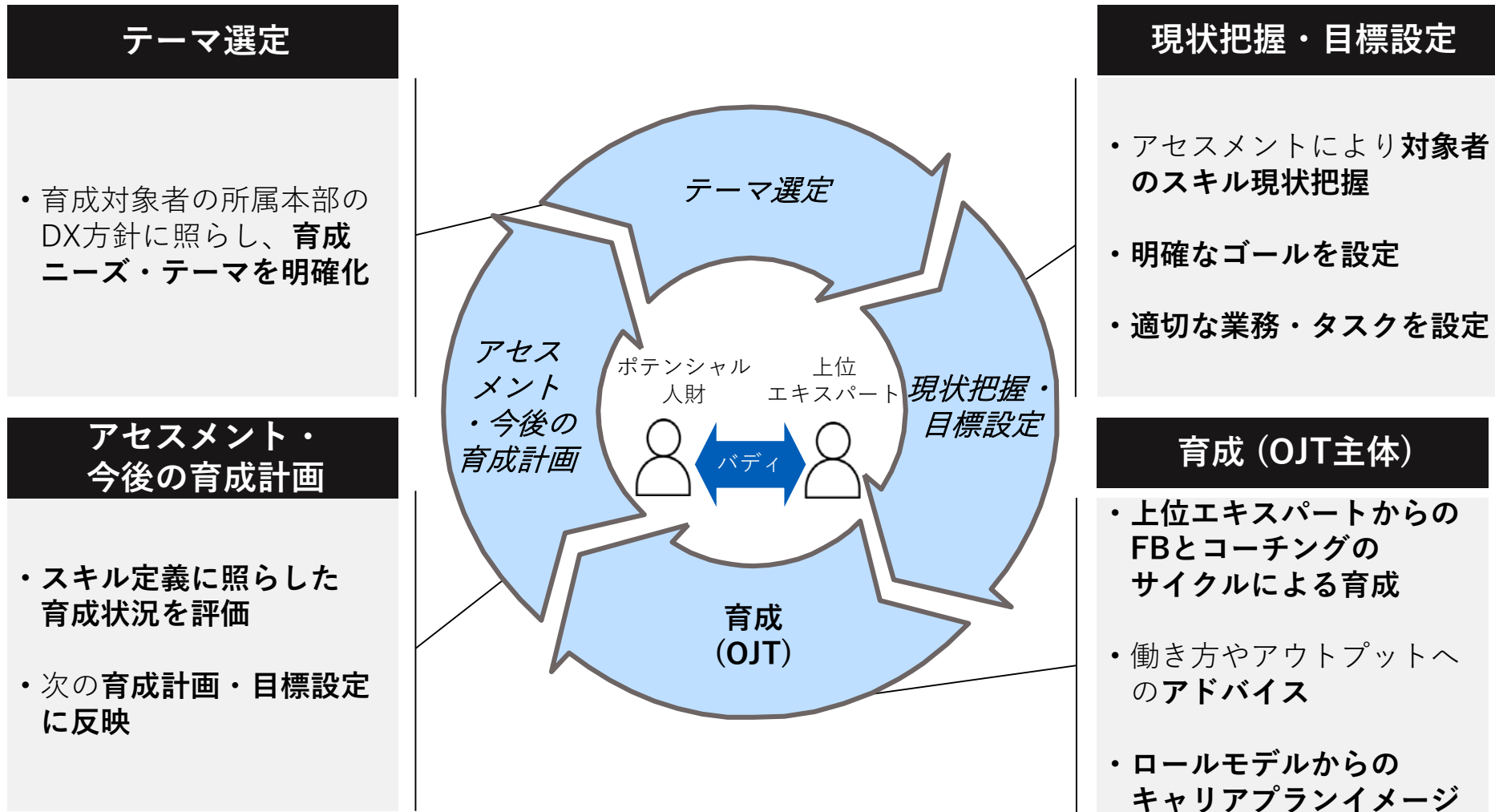
CDA育成プログラムの全体像（2021年）

◆職種共通および職種別のスキル強化に向けたOff-JT、および実務でのOJT育成も提供予定



OJTの概要

- ◆ 対象職種の上位エキスパートがコーチ役となり、育成目標の設定から実務での伴走、状況モニタリングまでのサイクルを回す



CDA育成プログラム実施の運用

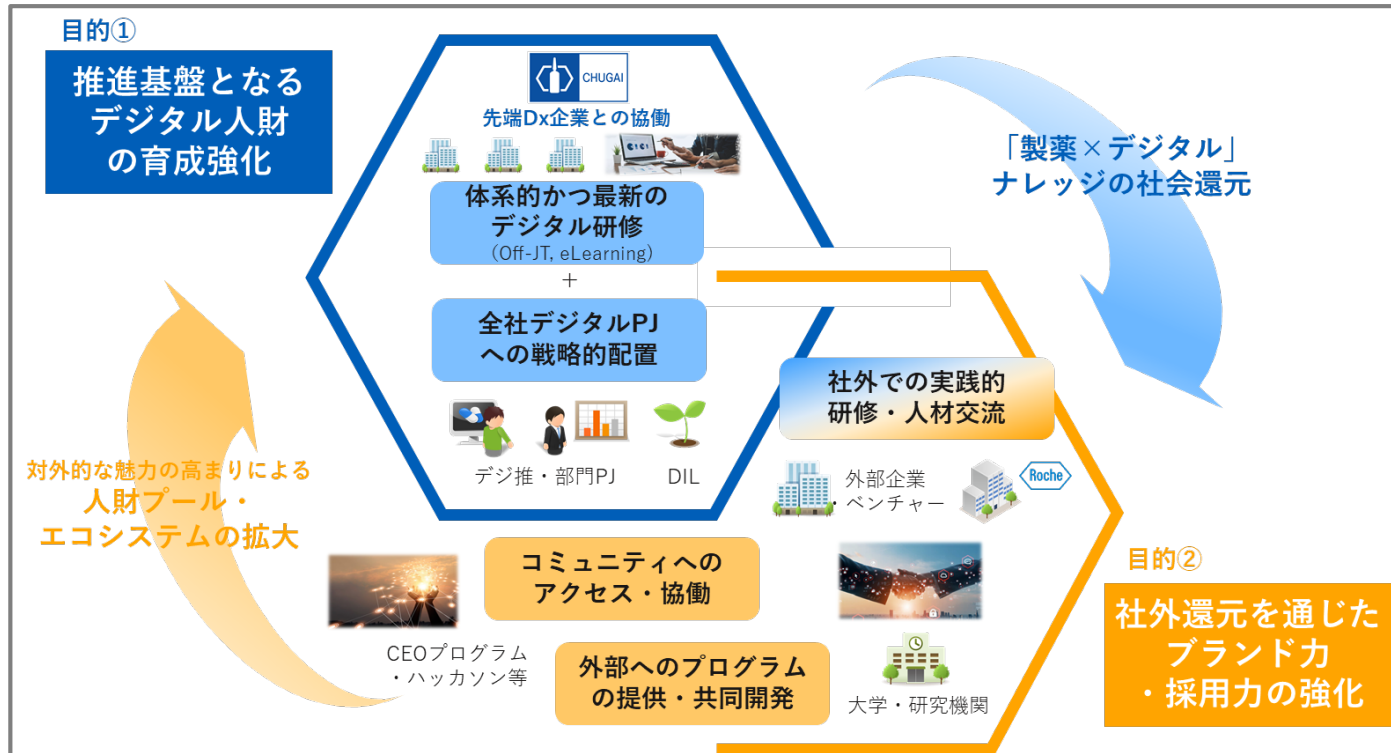
◆ 4・7・10月の年間3回開催し、前述のプログラム提供



※ OJTの実施期間は今後決定予定。本資料ではそれぞれ3ヶ月、6ヶ月と仮置き

CDA パートナーを募集しています

- ◆ CDAのコンセプトを実現するために様々なパートナー企業様を募集しております。
- ◆ 社内・社外におけるデジタル人財強化に共にチャレンジしませんか



【提供企業】



accenture



Albert
Analytical technology



Join us !

【提供コンテンツ】

- 職種共通基礎スキル
研修開発・提供
- DPL向け専門スキル
研修開発・提供

- DS向け高度解析専門
スキル研修の開発・
提供

- Xxxxxx
- Xxxxxx

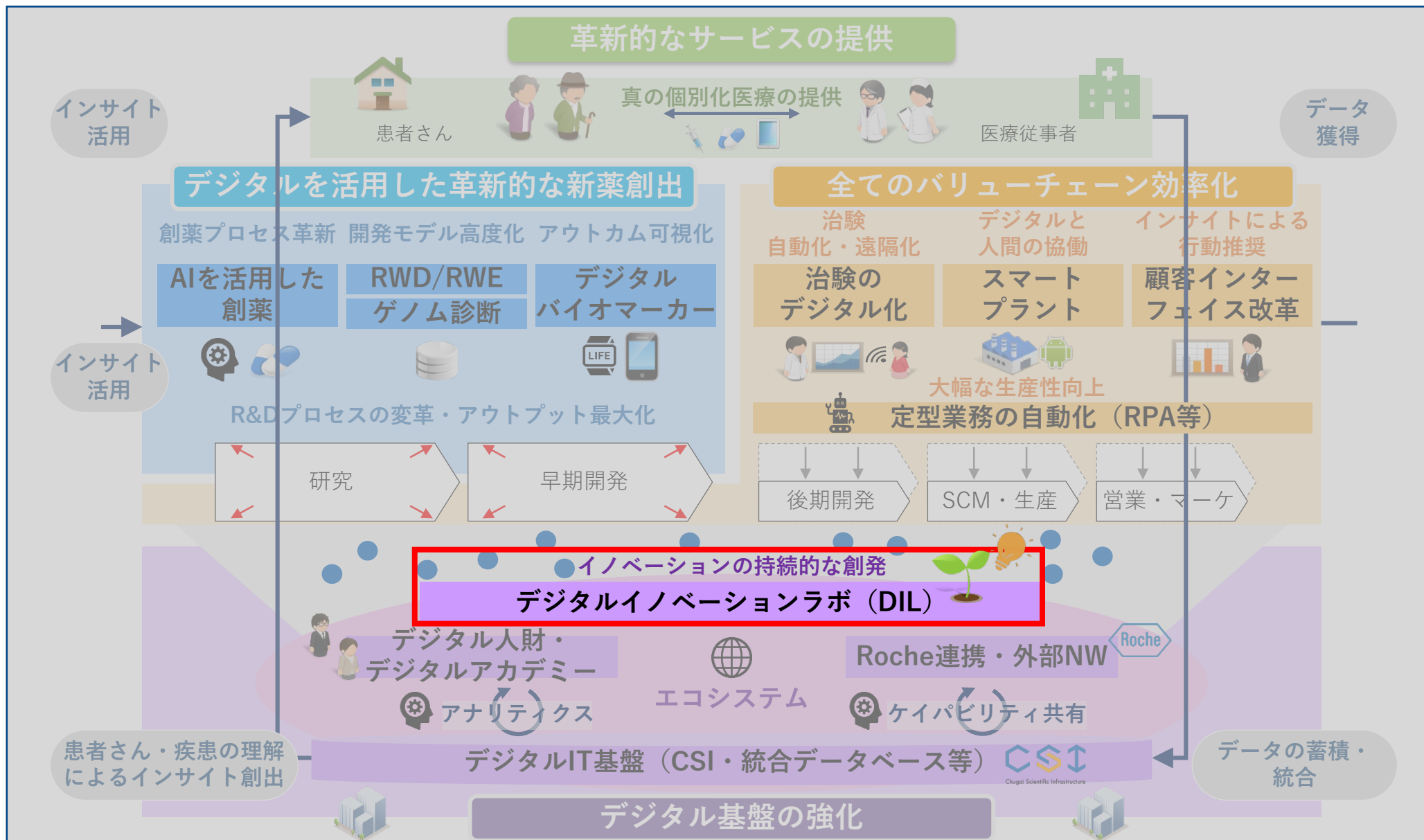
Agenda

1. TOP I 2030とCHUGAI DIGITAL VISION 2030
(志済 聡子, 執行役員 デジタル・IT統轄部門長)
2. デジタル基盤強化に向けた3つの取り組み
 - ① Chugai Digital Academy(CDA)
(中西 義人, デジタル戦略推進部長)
 - ② Digital Innovation Lab(DIL)
(中西 義人, デジタル戦略推進部長)
 - ③ Reconsider Productive Approach(RPA)
(小原 圭介, ITソリューション部長)

中外製薬DXの2030の絵姿

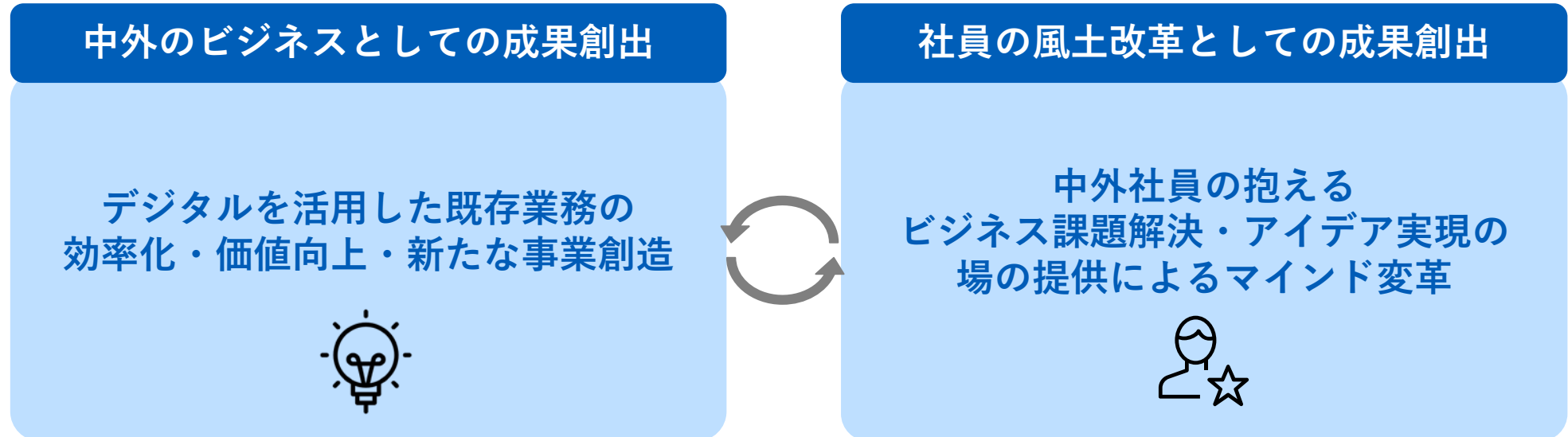


CHUGAI
DIGITAL



デジタルイノベーションラボ（DIL）とは

- ◆ ビジネス×デジタル観点による業務改善や新たな価値創造を実現させる仕組み
- ◆ 中外のビジネスとしての成果創出、社員の風土改革としての成果創出を狙う

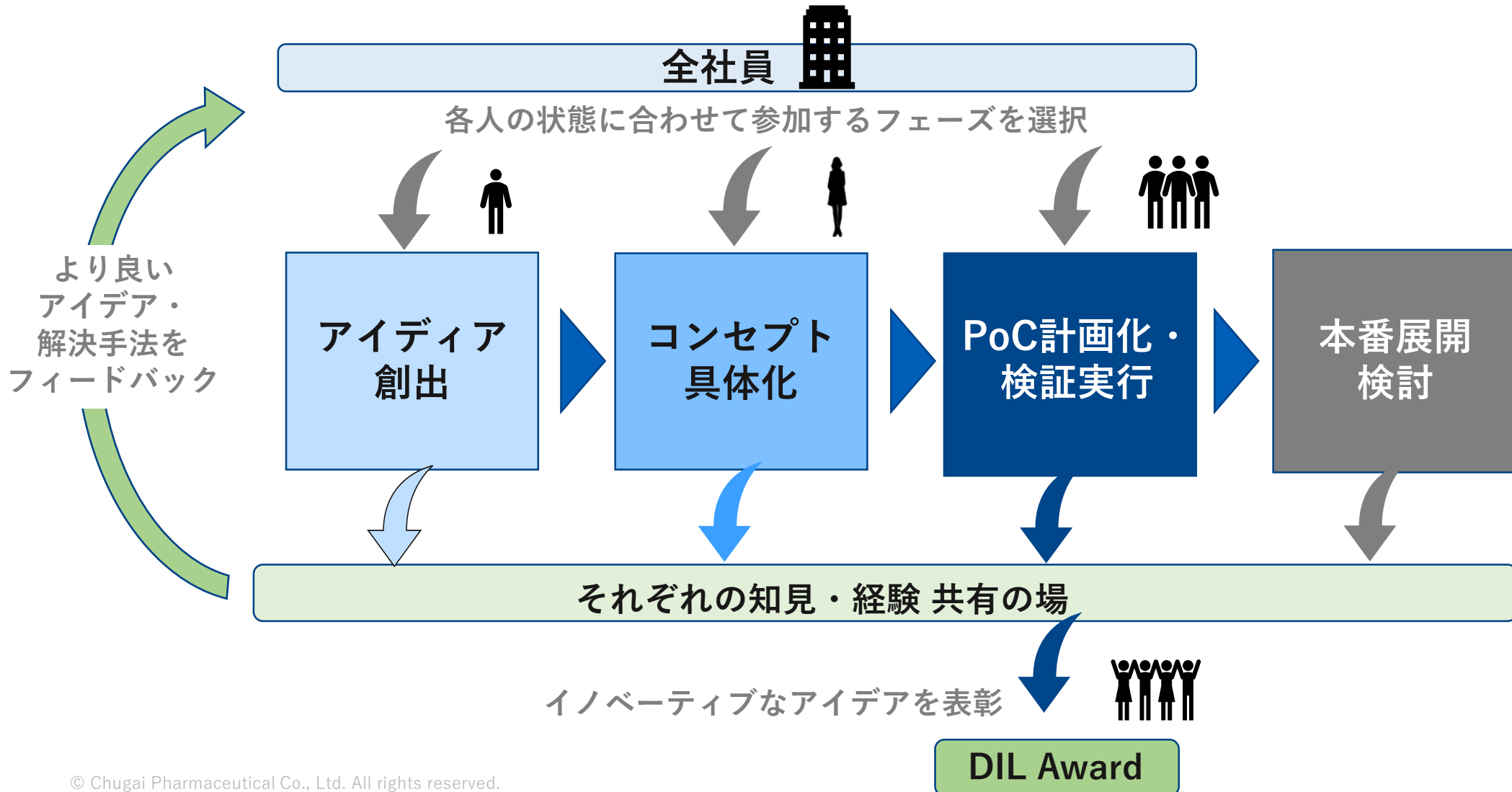


ポイント

- 外部パートナー・社内リソースと協働して課題解決を最速に実現
- プロジェクト開始までの承認プロセスを短縮し、アイデア具現化のサポートを実施
- 組織だけでなく、個人でも提案可能。誰もが新しいことにチャレンジできる仕組み

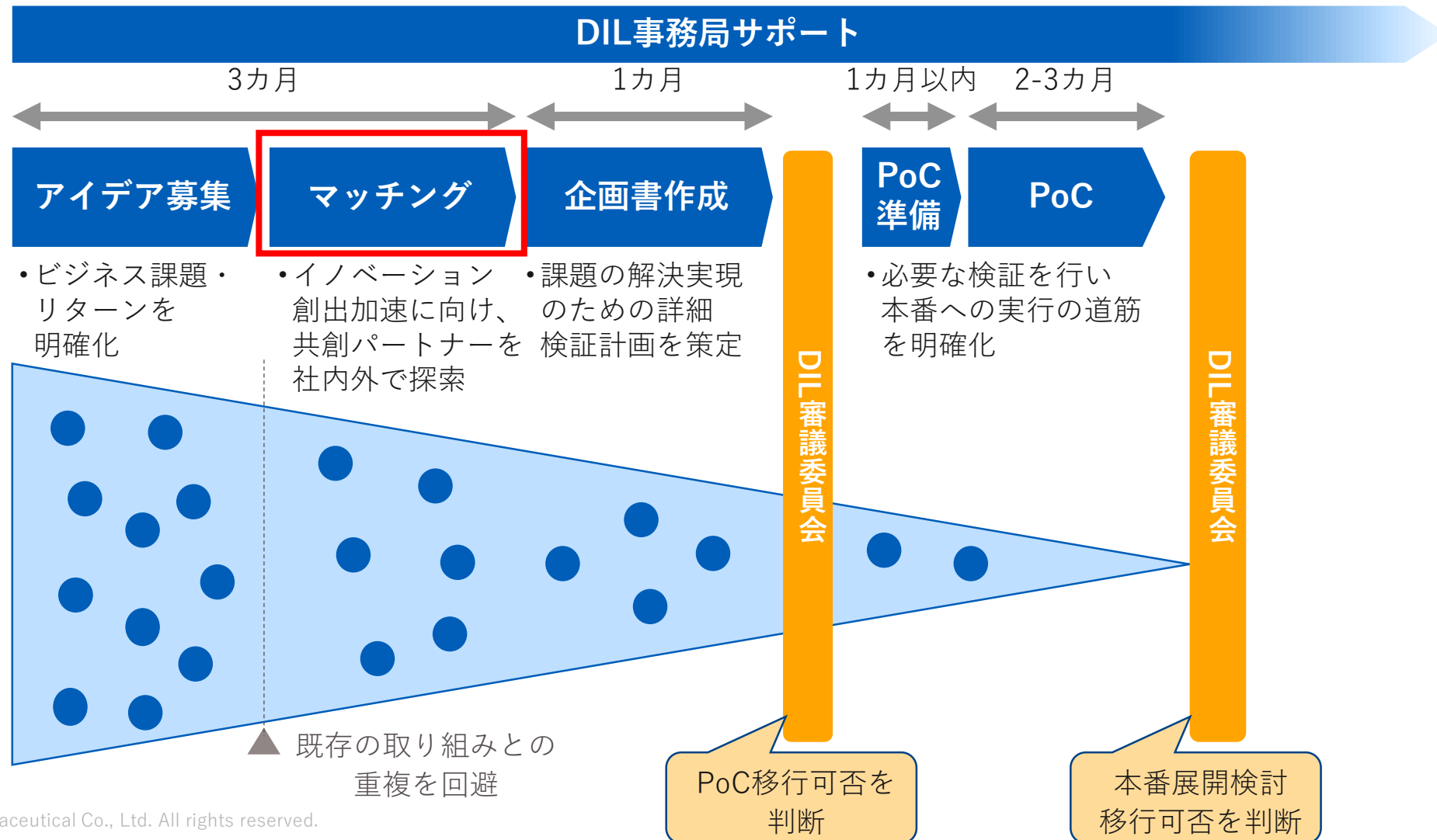
Digital Innovation Labの全体像

◆ 『アイデア創出～本番展開の意思決定』 までのアイデアを形にするプロセスを包括的に支援



PoC計画化・検証実行フェーズの詳細

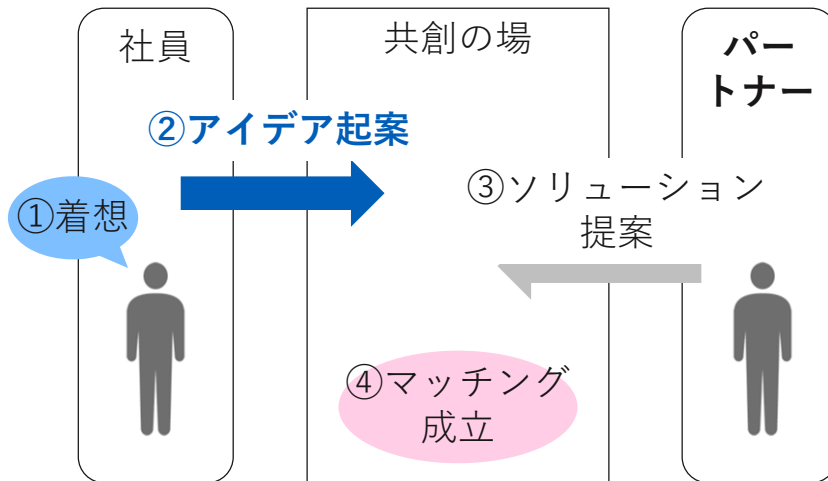
- ◆ アイデア募集後、中外社員と外部のパートナーをマッチングし、企画書(PoC計画書)を具体化。その後クイックにPoC実施し、本番開発を目指す



マッチングの仕組み

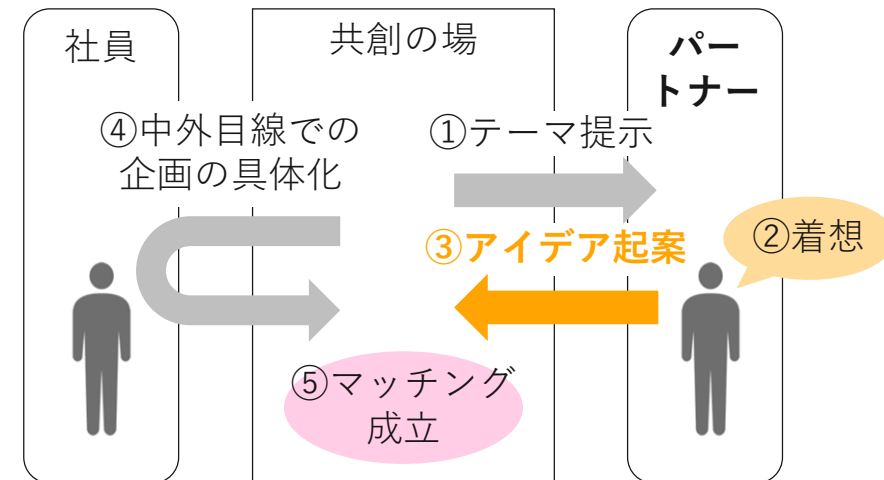
- ◆ 中外社員によるアイデア起案と、パートナーによるアイデア起案の2通りでアイデア起案
- ◆ 共創の場（ピッチコンテスト方式）により両者のマッチングを実現

A. 中外社員によるアイデア起案



- ・ パートナーが適合するソリューションを提案
- ・ 中外社員がパートナーを選定し、共同で企画書を作成

B. パートナー起点の提案

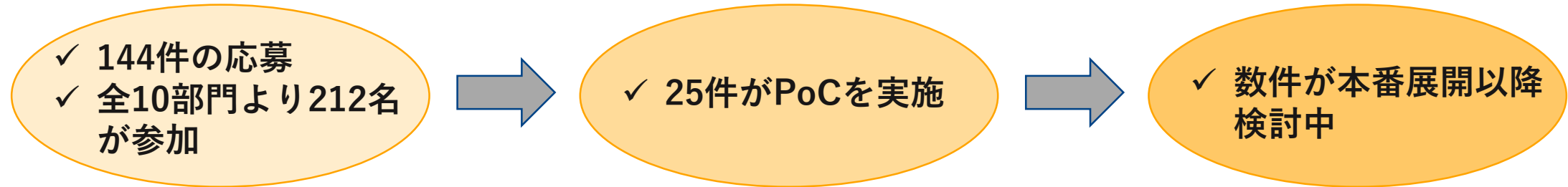


- ・ パートナー自身が企画とソリューションのアイデアを提案
- ・ 共創希望のある中外社員は意思表示、共同で企画書を作成

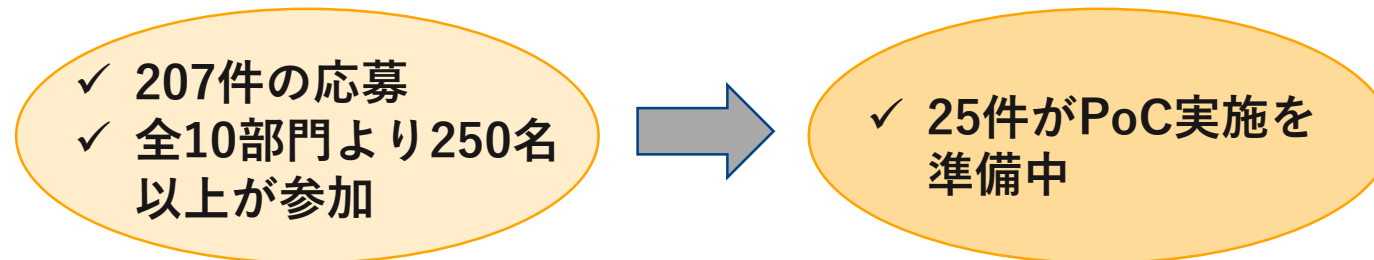
2020年および2021年案件数・応募者数

- ◆ これまで2回実施する中で全部門の社員が参加し、それぞれ100件以上のアイデアを応募
- ◆ 社内のアイデア実現インフラとして定着しつつある

2020年（DIL-1）：2020年6月募集開始



2021年 第一期（DIL-2）：2021年2月募集開始

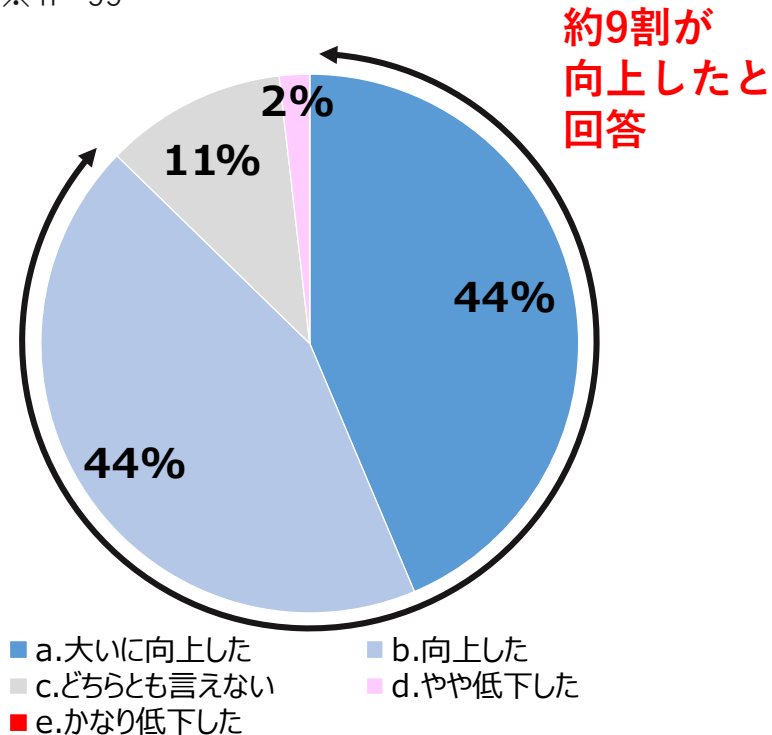


2020年DIL参加者へのアンケート結果～課題に対する変革意欲

◆ DILがアクションやデジタル理解・成長機会、社内外コラボ等のきっかけとなり、自ら変革を起こす意欲の向上に大きく寄与している

Q: DILの取り組みを通じて、課題に対して自ら変革を起こしていく意欲が向上したか？

※ n=55



行動の
きっかけ

- 部署内でのPoCを検討していたが、DILを通じて行うことで社内との調整もスムーズに行けた
- スピード感が増すことで、いいモチベーションを保ったまま遂行できた

デジタル
理解浸透・
成長機会

- リーダーとしてのふるまい方等実践する機会になっている
- デジタル化へ挑戦する意欲につながった
- 様々な技術について触れることができ、最新技術を調べるきっかけにもなった

社内外
コラボ

- 通常業務では関わらない他部署の方との議論を通じて視野が広がった
- 社内外の多くの方と連携し、思考を繰り返す作業が、モチベーションアップにつながった

DILにおけるPoC検証実施事例①

本番展開検討中

テーマ

VRを活用した分子モデリングシステムの導入

背景・課題

これまで3Dプロジェクタが設置された会議室に集まり、立体モデルを鑑賞しながら分子デザイン会議を開催してきた。これをリモートでも実施可能とするためVRを活用したシステム導入をしたい

検証内容

ビジネス観点

- ◆ 分子デザイン会議をリモートで開催する上で、従来の会議体と比べて**利便性・有用性の点で同等以上の効果**が期待されるか？

テクノロジー観点

- ◆ 鎌倉・御殿場間でリモートで開催する上で、ネットワークや計算機パフォーマンスに起因する**遅延などなく進行できるか？**

パートナー企業

富士通株式会社、Nanome

検証結果



ヘッドマウント
ディスプレイとしてOculus を使用

ビジネス観点

- ◆ 多くの会議参加者からPositiveな回答が得られ、従来の会議と比べて同等以上の効果が見込めると判断

テクノロジー観点

- ◆ ネットワーク回線の遅延や動作に問題がないことを確認

DILにおけるPoC検証実施事例②

テーマ

Chugai-dBM DataCollection Platformの構築
(Apple HealthKit/ResearchKitの活用)

背景・課題

医薬品開発プロジェクトにおけるdBM導入には様々な課題が存在する。Idea-basedでdBM導入が可能なPlatformを構築することで、誰もがクイックに活用できる環境を整備する

検証内容

ビジネス観点

- ◆ Consumer向け/Research向けを含む複数ウェアラブルデバイスから取得されるデータの比較
- ◆ 各ウェアラブルデバイス・スマートフォンで取得したデータの臨床における利用可能性評価

テクノロジー観点

- ◆ ResearchKitの活用容易性評価(ノンプログラマーでも活用が可能か?)
- ◆ iOSアプリを活用したデータ収集・蓄積アーキテクチャ検討・評価(コスト・拡張性・セキュリティ)

© Chugai Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.

パートナー企業

自社内で実施

検証結果



ビジネス観点

- ◆ 社員ボランティアでの観察研究を立案(倫理委員会付議済)
- ◆ 4Qまでにデータ取得が完了し、解析を開始する予定

テクノロジー観点

- ◆ 初期学習コストはかかるが、ノンプログラマーでなければ、比較的簡易にデータ取得アプリが作成可能
- ◆ データ収集・蓄積部分のアーキテクチャ設計・セキュリティ設計完了。プロトタイプを構築中
- ◆ セキュリティリスクに関する検証を実施中

DILにおけるPoC検証実施事例③

テーマ

乳がん術後のリンパ浮腫の発生予防

背景・課題

乳がん術後患者に生じることがあるリンパ浮腫は、早期発見・早期治療が重要である
患者本人による腕の周径測定や自覚症状の管理が可能なサポートツール、アプリを検討する

検証内容

ビジネス観点

- ◆ 医療従事者からのニーズの有無、
- ◆ 医療機器プログラム及び他疾患への横展開可能性

テクノロジー観点

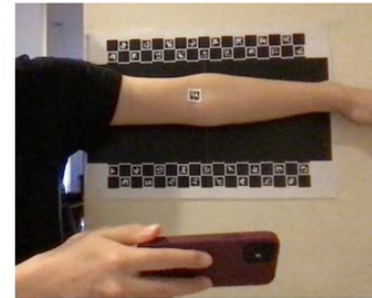
- ◆ リンパ浮腫発症の早期発見のために、スマートフォンアプリ等の汎用機器による**周径の推定は可能か？**

パートナー企業

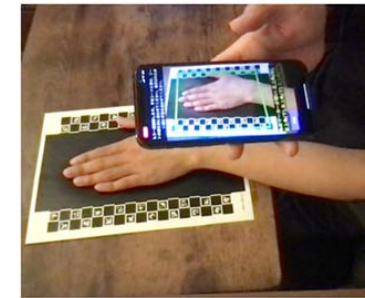
アクセンチュア株式会社

検証結果

腕撮影



手撮影



ビジネス観点

- ◆ 医療従事者へのヒアリングにより、臨床現場での高いニーズ、他疾患への横展開可能性を確認
- ◆ 医療機器プログラムではなく、ウェルネスデバイスの範疇であると判断

テクノロジー観点

- ◆ 測定部位や腕の傾きが精度に影響し、推定値と実際の周径との誤差が生じることを確認
- ◆ 本手法実現には新たな要素技術の検討が必要

DIL partner企業一覧（2021年6月現在）

◆一緒にチャレンジいただけるパートナー企業様を募集しております。



DIL partner企業一覧（2021年6月現在）

◆一緒にチャレンジいただけるパートナー企業様を募集しております。



DIL partner企業一覧（2021年6月現在）

◆一緒にチャレンジいただけるパートナー企業様を募集しております。

XCOO 【ténku:】



Reason Why III

 Integrity
Healthcare

 LPIXEL

alfresa

Agenda

1. TOP I 2030とCHUGAI DIGITAL VISION 2030
(志済 聡子, 執行役員 デジタル・IT統轄部門長)
2. デジタル基盤強化に向けた3つの取り組み
 - ① Chugai Digital Academy(CDA)
(中西 義人, デジタル戦略推進部長)
 - ② Digital Innovation Lab(DIL)
(中西 義人, デジタル戦略推進部長)
 - ③ Reconsider Productive Approach(RPA)
(小原 圭介, ITソリューション部長)

中外製薬DXの2030の絵姿



CHUGAI
DIGITAL



CHUGAI RPA (Reconsider Productive Approach)

- ◆ 「Reconsider Productive Approach」－ ロボットを開発する前に、現在の作業内容や作業手順を見直すことから始める－これが、中外製薬のRPA
- ◆ 2018年CFO直轄の全社プロジェクトとして始動し、累計7.7万時間以上の業務時間を削減
- ◆ 113業務シナリオ自動化／無人口ロボット稼働時間：4,715時間/月(約27人分) (稼働率80%)



CHUGAI RPA ロゴ

「業務プロセスを見直す」というキーワードから「目」をモチーフにしました。カラフルな6色が連なりぐるっと回転しています。ロボットが実働する・しないに関わらず、一連の業務プロセスを丁寧に見つめる、見直す。その過程すべての活動が「CHUGAI RPA」。そんな想いをこのロゴで表現しました。



CFOより認定カードの授与



エキスパート認定者の皆さん

RPA市民開発者の社内認定制度

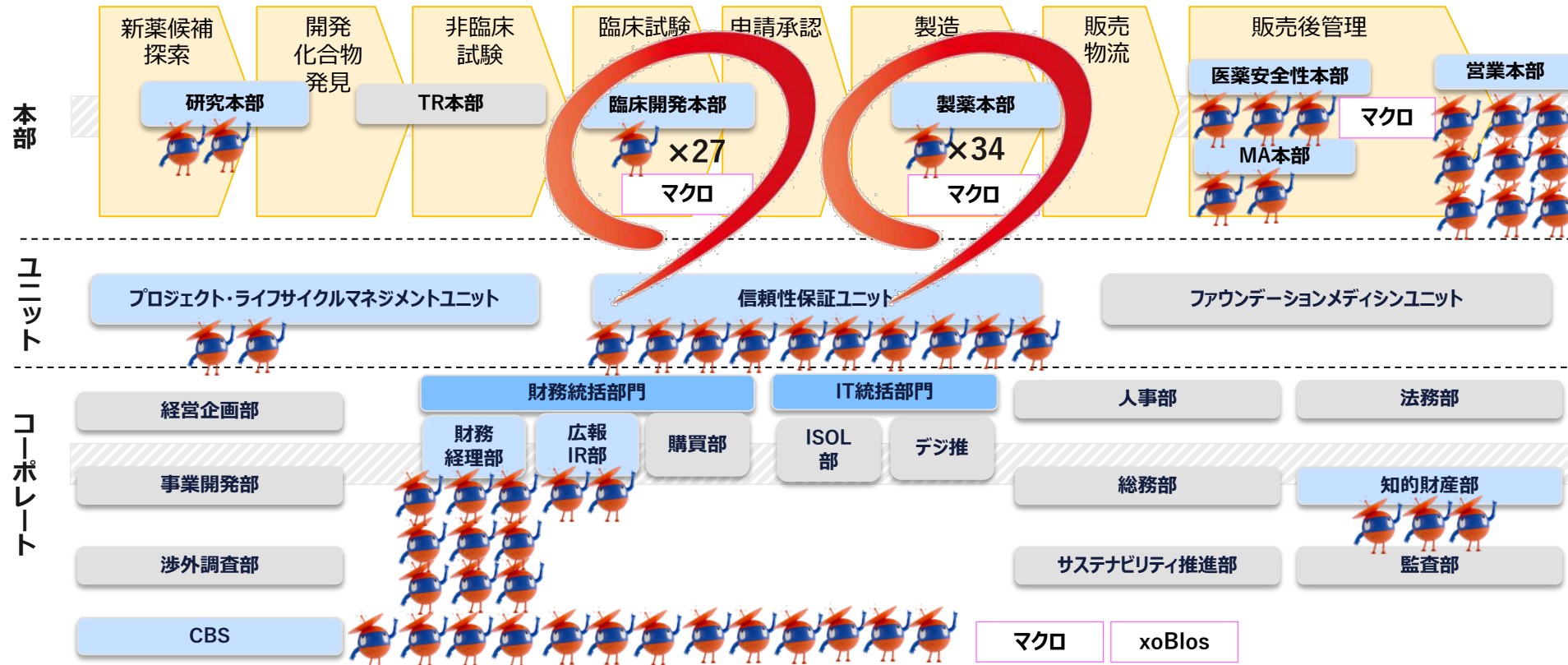
- ◆ 熟練したRPA開発者には「エキスパート」、エキスパートで組織全体のRPA活動推進を促進した者には「マスター」を認定（マスター・エキスパート認定者 34名）
- ◆ 認定資格として人事システムへの登録を認めている

ランク名	ベーシック	エキスパート	マスター
認定基準	簡単なシナリオ修正やエラー箇所を指摘できる。	簡単な業務プロセスをUiPathで開発できる。	- 業務プロセスを変革しながらシナリオを作成できる。 - RPAの自部署への推進に貢献した。 (RPAニュースレター配信、RPA導入・業務効率化相談会の開催など部門独自の内容) - 中外RPAの推進推進に貢献した。 (他業務効率化ツールと組み合わせた活動等) - 業務時間削減を達成した。 (目安200時間以上)
研修内容	- UiPathアカデミー * その他有料セミナーもございます。そちらを希望する場合はRPA事務局へご相談ください。	RPA開発パートナーの支援を受けながらRPAのシナリオを1つ以上作成。	
想定期間	50h	20人日	
認定者	受講修了書	開発パートナー確認の上RPA事務局	RPA事務局が上記要件を総合的に判断



CHUGAI RPAの現状と課題

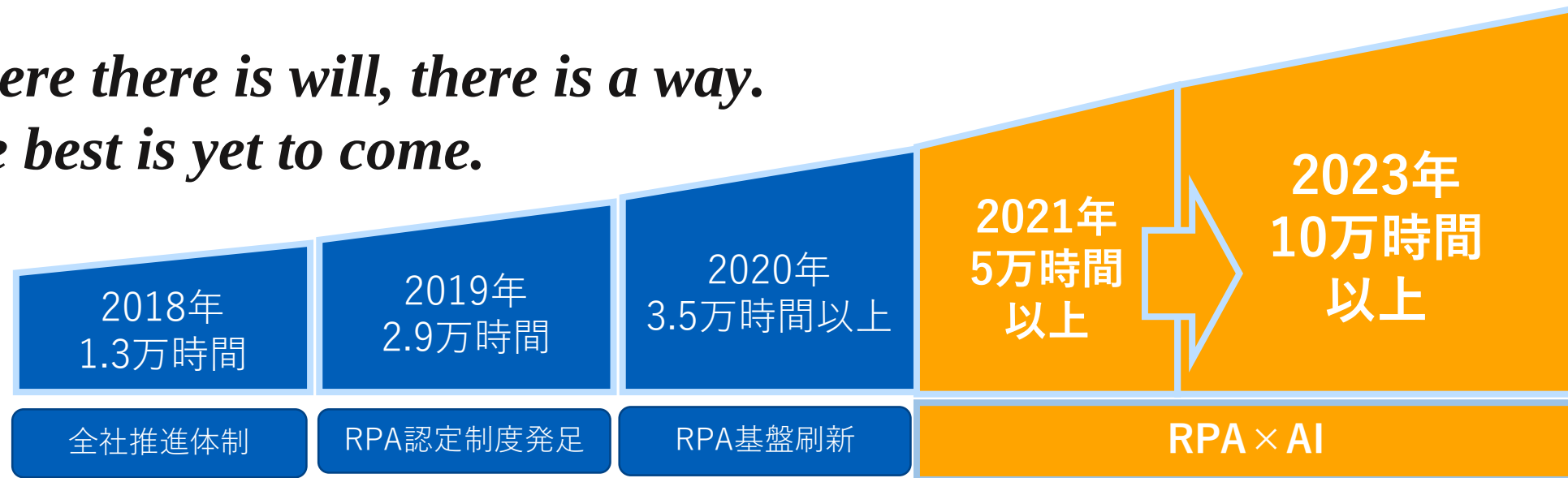
- ◆ RPAを活用する組織の積極性に濃淡がある
- ◆ RPA化に成功している組織は、業務効率化に対するトップのリーダーシップと目標設定、推進体制が整備されている
- ◆ 多くの従業員が活用できるRPAが少なく、効果を実感できている従業員は限定的



各組織・機能のRPA活用状況

- ◆ 2020年は、コロナ禍のテレワークを実現するコミュニケーション基盤や電子署名など業務のデジタル化が加速（デジタルワークプレイスの環境整備と働き方改革を牽引）
- ◆ 2021年は、RPA推進活動を再スタート、5万時間の業務削減時間の創出をKPIとする
- ◆ 2023年には、RPA×AIによって業務変革が当たり前のように行われ、10万時間の業務削減時間が創出可能な活動へと進化させる

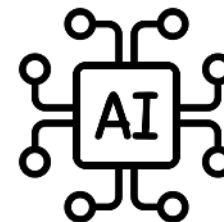
*Where there is will, there is a way.
The best is yet to come.*



+



+



Power BI
Business analytics



Power Apps
Application development



Power Automate
Process automation

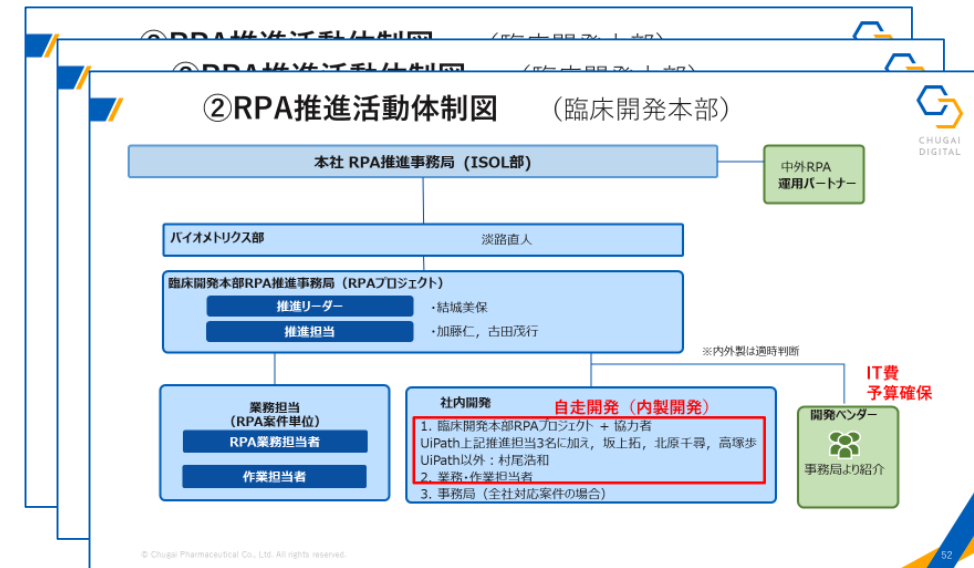
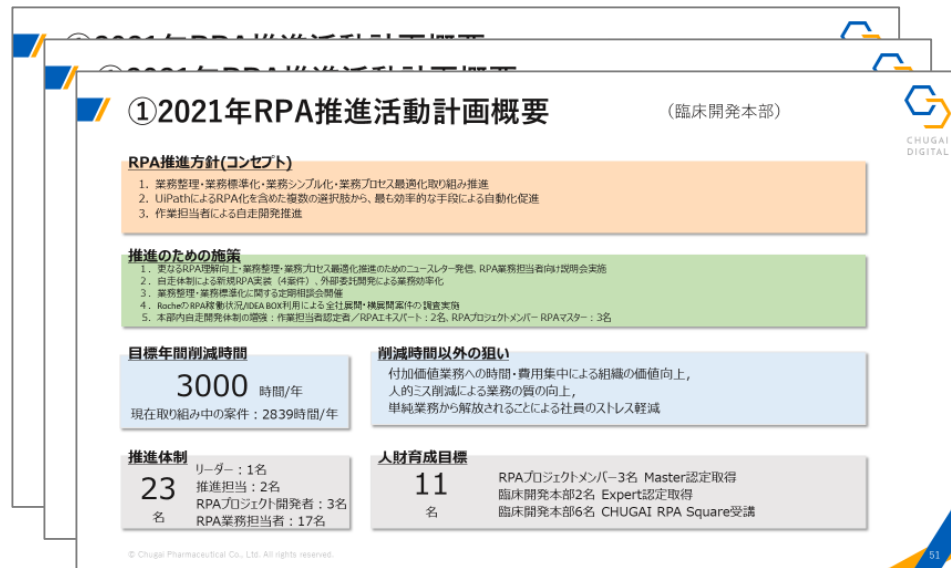


Power Virtual Agents
Intelligent virtual agents

RPA推進活動計画書 の作成

- ◆ 全てのユニット・本部・コーポレート基本組織がRPA推進活動計画書を作成
- ◆ 2021年は、全社で **181件**のテーマに対してRPA開発着手を計画
- ◆ 新たに**年間4.3万時間以上**の削減時間創出が可能になり、一人当たり約6.5 時間／年※の時間創出が可能
- ◆ 34名のRPA認定資格者（2021年4月時点）が、2021年末には**約120人**の人員増強が可能

部門別 RPA推進活動計画書のイメージ



RPA推進会議の拡大と組織長のコミットメント

- ◆ 全ての本部長・コーポレート基本組織長の参画と業務効率化へのコミットメント強化
- ◆ デジタル戦略委員会の分科会として、年に1度の開催から四半期毎の開催へ
- ◆ 各部門の取り組み状況やベストプラクティスの共有による価値最大化



2020年11月26日開催のRPA推進会議の様子

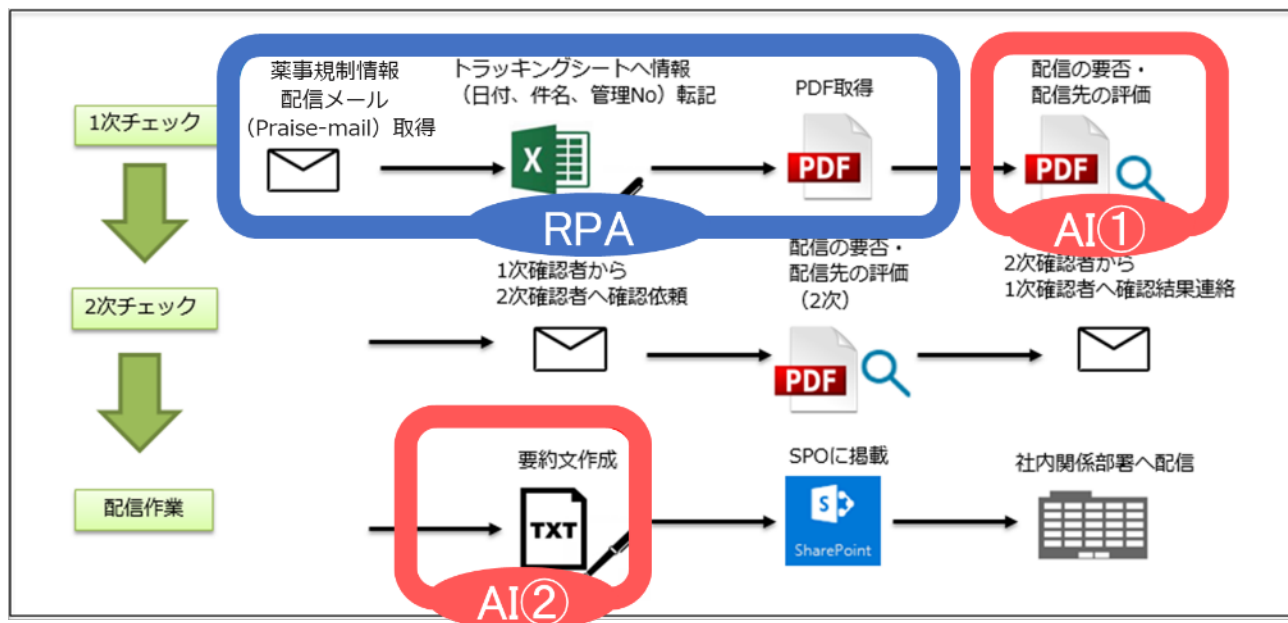
RPA × AIによる業務効率の最大化や規制対象業務のRPA化を推進中



CHUGAI
DIGITAL

- ◆ RPA × AIによって業務効率を最大化した事例も出始めている
- ◆ 高い信頼性が求められるバリデーション対象の規制対象業務のRPA化を開発中
- ◆ RPAプラットフォーム（UiPath自体）のクオリフィケーション（適格性評価）を実施中

RPA × AIの社内事例：薬事規制情報の自動収集・評価・要約作成業務



年間
570時間
削減

- RPA：160時間
- 配信判断AI：120時間
- 要約AI：125時間

AI正解率
95%
以上

- 担当者の能力や暗黙知への依存から脱却
- 判断の標準化達成

RPA × AIにより、更なる業務効率化を実現

「RPA IDEA BOX」で自動化の判断・業務整理をサポート

- ◆ RPAライフサイクル（アイデア提出～実装までの流れ）を一元管理し、全社でアイデア、RPA部品を共有
- ◆ 自動化ツールとして、UiPath Studio/StudioX、Microsoft Power Automate、Excelマクロが選択可能
- ◆ 2021年5月から全社展開開始（全ての従業員がアクセス可能）

RPA IDEA BOX画面イメージ



The screenshot displays the RPA IDEA BOX interface, which is a platform for managing automation ideas. The interface includes a header with the UiPath Automation Hub logo and navigation links for Workspaces, Search, and Dashboard. The main content area is divided into two rows of idea cards, each representing a different automation project.

Top Row of Ideas:

- RPAの活用による競合品のタイムライン可...**: A card for tracking competitor timelines using RPA. It shows 0 ideas and 0 reviews.
- インフラ運用業務の自動化 (ServiceNow...**: A card for automating IT infrastructure operations using ServiceNow. It shows 0 ideas and 0 reviews.
- 実験動物の血液処理のオートメーション化**: A card for automating blood processing for experimental animals. It shows 0 ideas and 0 reviews.
- 議事録の作成 (自動化)**: A card for automating meeting minutes. It shows 0 ideas and 0 reviews.
- 薬価関連のDB構築と利活用**: A card for building and utilizing a database for drug prices. It shows 0 ideas and 0 reviews.

Bottom Row of Ideas:

- 投資案件CAROL入力自動化**: A card for automating the input of investment cases into CAROL. It shows 0 ideas and 0 reviews.
- 議事録の作成 (自動化)**: A card for automating meeting minutes. It shows 0 ideas and 0 reviews.
- LoPo内のProgramListシート自動作成**: A card for automatically creating ProgramList sheets within LoPo. It shows 0 ideas and 0 reviews.
- 社宅設置判定_結果出力**: A card for determining and outputting results for company housing installation. It shows 0 ideas and 0 reviews.
- SPOへ複製**: A card for replicating data to SPO. It shows 0 ideas and 0 reviews.

Each card includes a title, a brief description, a status (e.g., 'フェーズ: アイデア'), a reviewer count (e.g., 'レビュー: 0'), and a submitter (e.g., '提出者: 170944 堀山 正雄').

CHUGAI RPA Squareの開校

- ◆ 業務効率化、自動化に関する基礎から応用までの幅広いコンテンツを用意
- ◆ 集中型の集合研修ではなく、毎週決まった曜日、時間開催
- ◆ UiPath Studioだけでなく、Microsoft Power Automateの教育カリキュラムも統合予定



CHUGAI RPA Square 第1期カリキュラム

RPA基礎
6月7日～7月12日
月13-14時 全6コマ

RPAやUiPathの概要や、中外製薬におけるRPAガイドラインや社内事例、他企業の取り組み事例などを学ぶことができます。

UiPath運用基礎
7月19日～8月30日
月13-14時 全5コマ

UiPathロボットの種類、手動実行、自動実行それぞれの運用の仕方、エラー発生時の対応方法などを学ぶことができます。

RPA IDEA BOX
6月2日～6月23日
水13-14時 全4コマ

自動化候補業務の提出～本番稼働までのRPAライフサイクルを管理するRPA IDEA BOXについて、アイデア投稿や評価の実施方法、実施時のポイントなどを学ぶことができます。

業務洗い出し手法
6月30日～8月4日
水13-14時 全5コマ

自動化候補業務を洗い出す手法を講義だけでなく、ワークショップを交えて学びます。実際にご自身の身の回りの業務を整理し、優先順位決めを実施いただき、最終的にはRPA IDEA BOXへの投稿を実施していただきます。

Task Capture
6月2日～6月23日
水15-16時 全4コマ

業務マニュアルの作成を支援するツールTask Captureについて、基本的な操作方法や、記録後のマニュアル修正方法などを学ぶことができます。

業務整理手法
6月30日～8月4日
水15-16時 全5コマ

業務を自動化する前に、業務を見直し、整理する手法を講義だけでなく、ワークショップを交えて学びます。入出力ファイルの整理の仕方、設計書の書き方なども学ぶことができます。

プログラミング基礎
6月3日～7月1日
木13-14時 全5コマ

条件分岐・反復などの制御構文、変数、関数などのプログラミングの基礎知識を学ぶことができます。

UiPath StudioX基礎
6月7日～7月26日
月15-16時 全8コマ

プログラミング経験がない方を対象にした自動化ワークフロー開発ツールUiPath StudioXについて、ハンズオン形式で一通りの操作方法を学ぶことができます。

UiPath Studio(初級編)
6月3日～8月26日
木15-16時 全16コマ

高機能かつ高度な自動化も可能なワークフロー開発ツールUiPath Studioについて、ハンズオン形式で一通りの操作方法を学ぶことができます。



RPA Master 認定カード



RPA Expert 認定カード

トップページ

CHUGAI RPAに関する様々な情報を日々更新しています。



CHUGAI RPA Promotion Site

[ホーム](#)[中外製薬のRPA](#) ▾[認定制度](#) ▾[RPA開発を始めるには](#)[利用者向け情報](#) ▾[ニュースレター](#)[HOT TOPICS](#)[編集](#)[☆ フォローしていません](#)[共有](#)[+ 新規](#) ▾ [ページの詳細](#) [分析](#)発行日 2021/5/13 [編集](#) [リンク](#)

THE BEST IS YET TO COME.

written by 板垣CFO

対面3回・電話1回・WebEX1回・ZOOMS回・Teams8回。これは、今月某週に私が参加した社内外会議の形式です。勤務形式はどうだったのでしょうか？ 今月の出勤は6日で、在宅が17日でした。因みに、コロナの字も無かった2年前、2019年3月のカレンダーを確認してみました。出勤が19日で、そのうち5日は海外出張をしていました。在宅はたったの2日で、会議は全て対面式でした。

それが、今では週3〜4日は在宅勤務で、会議の9割はリモート形式になっています。こうなる前から「週3日通勤」を密かに目論んでいた私にとって、あっという間の目標達成です。また、毎日、会議室から会議室への移動でうんざりしていたので、Teams会議は便利です。年に7〜8回あった海外出張は、時差に苦労していたので、無くなって本当に助かりました。

在宅制度やTeamsは既にあったので、この変化を自発的に起こすことも可能だったわけですが、今回は、新型コロナウイルス感染拡大という不可抗力で一挙に変わりました。



【ニュースレター】CHUGAI RPA NEWSスタート

詳細はこちら→

さて、RPAの話です。中外RPAは2018年に本社社として開始しました。この3年間で113業務が自動化され、7.7万時間強の効率化が達成されました。マスター・エキスパート認定者も36人になりました。「まだ足りないか！」「はい、でも、私は不満なんです。」これらの成果が、特定の部署とメンバーだけで成し遂げたものだからです。その部署・メンバーの活動は、大変素晴らしいものでした。もし、その取り組みが全社で行えていれば、成果は2倍にも3倍にもなっているはずです。



RPA IDEA BOX

RPA開発を始めるには



認定制度

■ 推進リーダー・担当者一覧

各部門のCHUGAI RPA推進リーダー・担当者を
ご紹介しています。

各部門推進リーダー・担当者一覧

発行日時: 2021/5/12

REVISED

ユニット・本部	役割		所属	氏名
	推進リーダー	推進担当者		
プロジェクト・ライフサイクル マネジメントユニット	○		R&D部 RD資源計画管理G	星崎 梓
		○	薬務部 薬事業務推進G	鈴木 博貴
		○	R&D部 RD資源計画管理G	坂野 妙子
情報保証ユニット	○		クリティカル推進部 ICソフトウェア推進システム開発・運用T	遠藤 正樹
		○	情報保証部 企業部 システムコンプライアンスG	吉岡 悠
		○	品質保証部 品質システム推進G	浅田 裕子
		○	薬務部 薬事部 システムインテグレーションG	外川 遼
		○	クリティカル推進部 クローバー/IOA推進G	斎藤 裕平
ファウンデーション マネジメントユニット	不在	不在	ヘルスケアコンプライアンス部 数値企画推進G	田中 真吾
研究本部	○		創薬部 創薬部 データエンジニアリングG	高村 将行
		○	研究業務推進部 研究業務推進部研究支援G	横田 弘志
		○	研究業務推進部 研究支援G	山下一 遼
		○	創薬部 創薬部 スクリーニングG	横田 遼
TR本部	○		プロジェクト推進部 4G	坂野 将行
		○	薬科学推進部 臨床薬理企画1G	佐藤 太太郎
		○	プロジェクト推進部 4G	青柳 真
		○	安全性研究部 一般毒性/生殖発生毒性2G	高谷川 妙子
		○	早期臨床開発部 クリニカルオペレーション3G	高山 幸紀
臨床開発本部	○	○	バイオメトリクス部 統計モデリングG	佐藤 美保
		○	バイオメトリクス部 Data Science推進G	佐藤 美保

■ 利用者向け情報

Studio X, RPA IDEA BOX, Task Captureなど
最新ツールの紹介をしています。



NEW

Studio Xとは？

個人の作業を直感的な操作で自動化できるRPA開発ツールです。
UiPath StudioXは、UiPathStudioに比べ、必要となるプログラミング知識が少なく、直感的に操作で自動化できることをコンセプトに開発されたツールです。
特にExcel やOutlook などOffice アプリの自動化に優れており、日常に行う繰り返し作業を簡単に自動化できます。



Studio X 操作デモ動画

StudioX 説明会資料DLリンク



StudioX説明会資料



UiPathStudioXライセンス資料



【ライセンス】経費申請一覧



Studio X説明会動画

RPA開発を始めるには

これからRPA開発を検討する方向けに、手順、申請先等を掲載しています。

RPA開発を始めるには

発行日時: 2021/5/12

部門でRPA開発を始めるには
RPA開発をご検討されている場合、[各本部・部署のRPA推進リーダー・担当者](#)へご連絡ください。
現場担当者・RPA推進担当者により選定した候補業務の概要、一次評価項目を[RPA IDEA BOX \(リンク\)](#)に記載し、CHUGAI RPA推進事務局へ提出します。
現場、CHUGAI RPA推進事務局での一次、二次ヒアリングを経て、推進事務局にて自動化実施可否を判断します。



アイデア
選出
評価
実施
評価
改善

業務選定

業務担当者、RPA IDEA BOXよりアイデアの提出を行います。
アイデアの提出は[RPA IDEA BOX \(リンク\)](#)の画面指示に従い、9つの質問に順次回答することで実施します。
質問9/9のプロセス所有者を回答するときは、自部門の「RPA推進リーダー」を設定します。
詳細については[業務選定ガイドライン](#)をご参照ください。

関連サイトリンク

[UiPath Automation Hub](#)

RPA IDEA BOXはこちら

[【CHUGAI RPA Square】業務選出・提出・承認・評価・改善](#)

質問	業務内容の利
1. 業務概要	自動化する業務プロセスの簡単な説明
2. 業務名称	自動化する業務プロセスの名称
3. 業務カテゴリ	アイデアのカテゴリ
4. ルールベースチェック	どれくらいルールベースで行われているか
5. 非データチェック	取り扱うデータの種類の確認
6. 機密データチェック	入出力データはどれくらい機密化されているか
7. 業務プロセスの変更チェック	今後6か月以内の変更の可能性
8. コメント欄	この業務プロセスのコメント欄はありますか
9. プロセス所有者	自部門のRPA推進リーダーのメールアドレス

CHERMS[※] 関連業務のRPA化

CHERMS[※] に関する業務をRPA化する際の開発方針、セクター利用手順などを掲載しています。

CHERMS関連業務のRPA化

CHERMSに関する業務を選定する場合は、[業務選定ガイドライン](#)をご確認の上、下記の補足資料をご参照ください。
[FAQ121_（補足資料）CHERMS関連業務RPA開発方針.docx](#)

関連資料



【CHERMSでセクター利用】概要説明資料



【CHERMSでセクター利用】環境構築手順

※ CHERMS: SAP R/3をベースとした基幹業務システムの呼称

CHUGAI RPA NEWS

不定期でニュースレターを発行しています。
ホットなニュースをお伝えしています。



HOT TOPICS

開発者インタビュー記事や社内外イベントの参加
レポートなどを掲載しています。



CHUGAI RPAの活動を当社公式YouTubeで紹介

社外向け動画でCHUGAI DIGITALおよびCHUGAI RPAのコンセプトをご紹介します。
製薬会社ならではのRPA活用事例も掲載しています。



<https://www.youtube.com/watch?v=m1AzLz19hIQ>

RPAをもっと身近に



CHUGAI RPA

Reconsider Productive Approach

広報IR部

報道関係者の皆様：メディアリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0881

E-mail : pr@chugai-pharm.co.jp

担当 : 清水、三義、横山、和泉、大塚



CHUGAI
DIGITAL